

今できることを精いっぱいやりましょう

校長 高橋 実

新型コロナウイルスの感染が治まるところを知りません。一時は、4月の再開を決めていた横浜市教育委員会も、より厳しくなる感染状況に、休校を延長せざるを得なくなりました。誰もが生まれて初めてのことに立ち向かっているわけで、判断が揺れ動くのも致し方ない事かと思いますが、再開を待ち望んでいた私たちは、この先どうなってしまうのだろうという不安を拭い去ることができません。一刻も早い感染の終息を願っています。

志村けんさんが新型コロナウイルスに感染し、お亡くなりになりました。私は、ザ・ドリフターズの頃からずっと見続けてきました。特に『天才！志村どうぶつ園』で見せていた優しい笑顔を思い出すと胸にこみあげるものがあります。志村けんさんは、人生の最後に、新型コロナウイルスの恐ろしさを世間に伝えてくれたのではないかと思います。新型コロナウイルスの市中感染が広まっている最中でも、なかなか実際の恐ろしさを十分に把握できていませんでした。心のどこかに、インフルエンザのようにいつのまにか治まるのではないか、かかっても重症化しないで快復するのではないか、との思いがありました。しかし、志村けんさんが亡くなったことにより、そうした考えが吹き飛んだように思いますし、世の中の新型コロナウイルスに対する考え方も随分変わってきたように思います。まさに今こそすべての人々が力を合わせてこの局面を乗り越えていく時ではないかと思います。

年度当初の新たな学年のスタートの時期、明るい話題で希望に満ちたスタートを飾りたかったのですが、変則的なスタートになってしまいました。それも、これ以上の感染拡大をしないために、横浜市が判断した措置ですから、その趣旨を正しく把握して行動していきたいと思います。学校を休みにしても、繁華街に行ったり、大勢の人で集まったりしては、感染拡大防止の効果がなくなってしまいます。大人も子どももすべての人が、学校を休校にすることの意味を十分に理解して、協力をしていただきたいと思います。そして、休校の間に何をしたらよいのか、家族で話し合っしてほしいと思います。また、万が一感染してしまうことがあったとしても、そのことに対して偏見の目で見ないようにするという事も大切なことだと考えます。

予想もしなかった大変な時期を生きていかなければなりません。今できることを精いっぱいやって、あるいは我慢して、この難局を乗り越えていきたいと思います。